

# 教育委員会定例会議事日程

令和2年2月7日(金) 午前10時00分

1 会議録の承認

2 一般報告・その他報告事項

成年年齢引き下げ後の横浜市の成人式について

横浜市E S D推進コンソーシアム交流報告会について

3 審議案件

教委第62号議案 横浜市学校規模適正化等検討委員会委員の任命について

教委第63号議案 第28期横浜市就学奨励対策審議会委員の任命について

教委第64号議案 横浜市学校保健審議会臨時委員の任命について

教委第65号議案 「教委第49号議案 横浜市立小学校における給食室屋根材の飛散による物損事故に係る損害賠償額の決定に関する意見の申出について」の議決の取消しについて

教委第66号議案 横浜市立小学校における給食室屋根材の飛散による物損事故に係る損害賠償額の決定に関する意見の申出について

4 その他

## 教育委員会定例会 一般報告

### 1 市会関係

### 2 市教委関係

#### (1) 主な会議等

○1/21～ 第62回 横浜市立中学校・義務教育学校 個別支援学級 合同学芸会

○2/5 第2回全体校長会議

#### (2) 報告事項

○成年年齢引き下げ後の横浜市の成人式について

○横浜市ESD推進コンソーシアム交流報告会について

### 3 その他

## 成年年齢引き下げ後の横浜市の成人式について

令和4年度以降の本市の「成人の日」を祝うつどい（以下成人式）は、「成人としての社会的責任を改めて自覚し、横浜への愛着を深める等の重要な場」として、引き続き20歳を対象とすることとします。

### 1 現行どおり20歳を対象とする主な理由

- ・市民アンケートでは「今までどおり20歳を対象として実施すべき」との回答が最も多かったこと。
- ・18歳を対象とすると、新成人（18歳）の皆様の多くが受験や就職活動の時期と重なり、参加しにくくなること。

#### 【検討の経緯】

##### (1) 市民アンケート調査（別紙参照）

横浜市在住、在学の15歳～69歳<sup>(※)</sup>の約6,200人を対象にアンケート調査を実施し、回答いただいた約3,500人のうち、約67%の方が「今までどおり20歳を対象として実施すべき」と回答しました。<sup>(※)</sup>令和2年4月1日時点の年齢

##### (2) 関係団体等への意見聴取（別紙参照）

関係団体・有識者との懇談会を実施し、成年年齢引き下げ後の成人式について、意見聴取を行い、総意として、「現行どおり20歳で実施するのがよい」とのご意見をいただきました。

### 2 20歳で成人式を実施する意義

現行の成人式は、平成16年度の「成人の日」記念行事のあり方についての提言に基づき実施しています。しかし、令和4年度以降は新成人の定義が18歳となるため、20歳で成人式を実施する意義については以下のとおりとします。

現在の成人式の意義（平成16年度これからの「成人の日」記念行事のあり方について（提言））	令和4年度以降、20歳で成人式を実施することの意義
①成人式は新成人が大人になったことを自覚するための行事であり、記念式典の主役は新成人である。	①成人としての社会的責任を改めて自覚し、大人としての行動を考えるためのきっかけの場とする。 ②それぞれが、これまでの成長を振り返り、横浜市民のアイデンティティを認識し、横浜への愛着を深める場とする。
②成人式は新成人自らが企画に参画し、併せて青少年育成団体との協働により進められることが必要である。	③成人式は成人自らが企画に参画し、併せて青少年育成団体との協働により進められることが必要である。
③成人式は、新成人の自覚を促すため大人からのメッセージを託す場としても重要である。	④成人式は、改めて成人の自覚を促すため大人からのメッセージを託す場としても重要である。

### 3 式典の名称

はたち  
二十歳の横浜市民を祝うつどい（仮）

## 1 横浜市「成人の日」を祝うつどいに関するアンケート調査

## (1) 調査概要

調査対象	調査期間	調査方法	標本数	有効回答数 (回答率)
横浜市民 (15歳から69歳)* *令和2年4月1日時点の年齢	令和元年 10月18日 ～11月8日	住民基本台帳から無作為抽出し、郵送により調査票を配布・回収	3,850票	1,769票 ※1 (45.9%)
横浜市立学校の生徒 (中学3年生～高校3年生)	令和元年 9月19日 ～10月25日	横浜市立学校34校に直接調査票を配布・回収	2,328票	1,754票 (75.3%)
計			6,178票	3,523票 (57.3%) ※2

※1 属性(年齢)無回答の150票を含む

※2 合計欄の回答率は「有効回答数/(標本数-調査票未着数※3-無効票)×100」

※3 宛先不明等で返送された調査票

## (2) 主な設問

問：あなたは「成人式」に参加したいですか（参加しましたか）。あなたの考えに最も近いものを選んでください。	
① 横浜市の成人式に参加したい（参加した）	63.0%
② 横浜市以外の成人式に参加した	6.2%
③ 成人式に参加したくない（参加しなかった）	15.2%
④ わからない・覚えていない	15.4%
⑤ 無回答・無効票	0.3%

※満15歳～満20歳で、「成人式に参加したい」と回答した方は、各年齢ともおおむね67%を超える結果でした。

問：2022年（令和4年）4月に成年年齢が20歳から18歳に引き下げられます。成年年齢が18歳に引き下げられたあとの成人式について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。	
① 今までどおり20歳を対象として実施すべき	66.8%
② 対象年齢を18歳に変更して実施すべき	13.8%
③ 実施しなくてよい	7.4%
④ わからない	10.6%
⑤ 無回答・無効票	1.4%

※「今までどおり20歳を対象として実施すべき」と回答した方が最も多い年齢は、満19歳の77.8%、次いで、満20歳の73.8%でした。

※「今までどおり20歳を対象として実施すべき」理由は、「18歳で成人式を実施すると、受験や就職活動の時期と重なり、成人式に参加できない人が増えるから」が34.9%で最も多い結果でした。

## 2 横浜市「成人の日」を祝うつどいに関する懇談会

## (1) 実施日

令和元年12月23日

## (2) 参加団体等

横浜市町内会連合会、横浜市青少年指導員連絡協議会、横浜商工会議所、横浜市心身障害児者を守る会連盟、横浜市PTA連絡協議会、(公財)横浜市男女共同参画推進協会、横浜市立中学校長会、横浜市立高等学校長会、横浜市立特別支援学校長会、有識者（東京大学大学院教育学研究科教授、東京大学高齢社会総合研究機構副機構長（併任）、第32期横浜市社会教育委員会議長）

## 横浜市ESD推進コンソーシアム※1 交流報告会について

1 日時 令和2年1月25日(土) 児童・生徒の部 9:30～12:00  
教員の部 13:30～16:45

2 場所 JICA 横浜

### 3 参加者

ESD推進校児童生徒(小学校11校、中学校3校、高校1校)・教職員  
ピースメッセンジャー(小学校1名、中学校2名)

ESDに関心のある学校の管理職・教職員 横浜市ESDコンソーシアム委員  
保護者、大学教授、温暖化対策本部・環境創造局・文化観光局職員、NGO・NPO等

### 4 内容

#### (1) 【午前】児童生徒の部

##### ア ポスターセッション・感想交流

各校のESD推進やピースメッセンジャーの取組について、児童生徒がポスターセッション形式で発表した。ポスターセッションを受けて、全体で感想交流を行った。

##### イ ワークショップ

児童生徒にも社会にある様々な課題を自分の事として考えてもらうため、「電気やガス」や「自然災害」など日本の抱える課題をテーマとして各グループに提示した。

小・中・高校生で同じグループでテーマについて話し合い、当日参加した大人のグループもつくり意見交流をした。

##### ウ 講評

東洋大学 米原あき教授に講評をいただいた。

#### (2) 【午後】教員の部

##### ア 交流報告

昨年11月に広島県福山市で行われたユネスコスクール全国大会の参加教員が報告した。

##### イ 講演

米原教授に「評価」概念の再考～ESDの視点から～をテーマに講演いただいた。

##### ウ パネルディスカッション 推進校の実践から

小中高の教員4名とコンソーシアム委員の星槎大学 和泉良司講師と米原教授がパネリストとして登壇し、ESD実践の評価に関する成果を発表し、今後の課題や展望について話し合った。

##### エ GCED※2 及び ESDに関する調査報告

推進校の教職員が調査に協力している、ESDの推進に向けた評価の枠組みに関する研究について、東京大学 北村友人准教授にその進捗と今後の方向性についてお話しいただいた。

※1 横浜市ESD推進コンソーシアム

教育委員会が事務局となり、文部科学省のグローバル人材の育成に向けたESDの推進事業を活用し、大学や企業、国際機関、市庁局等が連携し、学校運営とカリキュラムデザインの両面で学校へのESDの浸透を推進する集合体。

※2 GCED

Global Citizenship Educationの略で、「地球市民教育」と訳されています。学習者が国際的な諸問題に向き合い、その解決に向けて地域レベル及び国際レベルで積極的な役割を担うようにすることで、平和的で、寛容な、包括的、安全で持続可能な世界の構築に率先して貢献するようになることを目指すものです。

オ ワークショップ

各校の実践についての成果と課題(悩み)について共有し、グループのメンバーを変えながら、課題解決と相互評価を行った。

カ 全体講評

北村准教授に、会の講評とこれからのESDのあり方について講演いただいた。

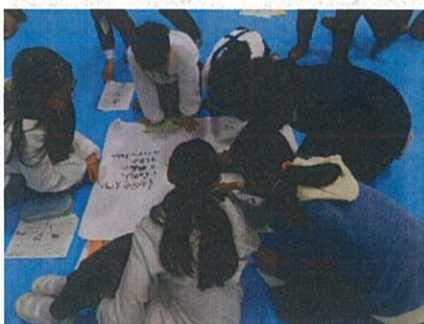
5 当日の様子



午前の部 ポスターセッション



午前の部 ワークショップ



午前の部 ワークショップ



午前の部 全体講評



午後の部 パネルディスカッション



午後の部 ワークショップ